

専門学校における専門的職業教育の特質

一介護福祉士養成学科を中心に

大友達也 (北海道大学大学院)

はじめに

我国の専門学校が専門的な職業教育としての専門的職業人養成としての役割を担い、学生数、学校数共に量的増加傾向を示してきたといえる。

しかし、我国において量的に増大してきた専門学校教育の内容、質的な側面ではこれまで十分に研究されてきたとはいえない。

本研究では、専門学校教育の特質をみる前提として、2点に着目した。

第1に、専門学校の科目は大学のように学問体系ではなく、資格や特定職業に必要とされるものとして対応しており、「即戦力」としての実践力を身につける教育を行っているということである。

このような特徴のある専門学校教育は職場に必要な技能形成としてどこまで役割を果たしているかをみる必要がある。特に入職者のスキルの形成には OJT が大きな役割を果たしているといえる。

そこで、本研究では上記のことを踏まえて労働現場の OJT と専門学校教育がどのように連結され、どこまでが専門学校教育によって実現しているのかをみなくてはならない。

第2に、具体的な職業を念頭においた特定の領域に対する教育を専門学校は短期の学習年限で実現させていることから、必要な科目を最小限にまとめて構成されているため、専門学校教育には「狭さ」が生じていると考えられる。

そこで、その「狭さ」は専門学校教育においてどのような構造になっているのか、また、それに関わる課題などを整理していく必要があると考えられる。

上記2つが実際の調査によってどのような

実態で、どのように展開され、どのような課題があるのかをみていくことから、今日の専門学校教育の特質を整理することができよう。

調査方法

本研究では専門学校の取り組みとして専門学校内部での教育をみる他、卒業後就職し活躍している職業現場を調査し、特徴をみようとするものである。

今回は、これまで特に取り上げられてこなかった福祉分野の専門的職業教育（最近では大学や短大においても一部重なっている分野である）を中心にみていくことにした。

専門学校へのアンケート調査、専門学校へのインタビュー調査、在学生へのアンケート調査、卒業生のインタビュー、および介護福祉士の労働現場へのインタビュー調査を実施している。いずれも、介護福祉士養成学科を中心にしており、調査場所は、主に北海道の専門学校で実施しており、その他に、東京の専門学校へインタビューによる調査もしている。（具体的な調査件数などは当日の資料を参照）

結果

上記の調査によって明らかになった中から、今回特に発表する部分として以下の2つの項目に分けてまとめる。

<労働現場>

第1に介護福祉士の労働現場は、介護福祉士の専門職としての位置付けが弱いということが明らかになった。現代の介護系の専門学校教育で育成されている介護職の特質でもある。

介護福祉士労働現場の特徴は、看護職との位置付けが不明確な部分があること。

また、自立性、および自律性が不十分で厚生省が目標として掲げている「福祉専門職」には至らない。

しかし、厚生省で求める「福祉専門職」と

して位置付けられた介護福祉士は厚生省による高度な専門的資格を目標としており、そのための教育には厳格な基準が取り決められていた。つまり、職業教育の目指す基準と労働の現実とのギャップがみられた。

矛盾を抱えながらも介護福祉士が専門職化していくなかで専門学校は職業人養成として役割を担っているのである。

第2に、「即戦力」を実現させると言われる専門学校教育において、特に重視されているのが「現場実習」である。

この実習が OJT の先取りとなっている面と専門学校教育における理論などの科目の学習理解に効果的につながるということが明らかになった。

団体の活動、学会活動など）ができる環境とはなっていないといえる。このことは、介護福祉士の専門・職業能力開発の機会は、労働現場の状況からみて低いといえるとともに、卒後教育が十分に形成されてはいないといえる。

上記の内容に発表時には専門学校教育に関する新たな課題もいくつか明確化できたことも加えて触れておきたい。

<専門学校教育にみられる「狭さ」の構造および特徴>

短期間に専門教育を行うという性質上、学校教育の内容は限られた専門教育となっている。専門学校の狭さの構造および特徴とは、

1. 専門学校教育内部のカリキュラムだけではなく、入学から卒業後までの各段階で相互に関連しながら存在している。
2. 学校間格差において各専門学校では差別化を図るため、努力がなされるにもかかわらず、結果として卒業後において専門技能の能力には、労働現場からの評価には差別化されたものが評価として十分に反映されてはいない。

その原因には、第1に専門学校教育が持つ画一的な厚生省によるカリキュラムなどの資格基準が決められていることのウエイトが大きいということ、もうひとつは、短期高等教育というように短期間の専門学校教育が持つ「狭さ」が要因のひとつとなっている。

3. 介護福祉士は卒業後、研修など学習の継続性が求められる職業であるが、専門学校卒業後において労働環境の実態から介護福祉士の専門性を向上させる研修（大学等への継続学習、専門職